

一〇二三年六月三〇日

座すによき風倒木や杜涼し
楊梅の散るを踏むまじ散步道
梅雨夕焼海と空とのけじめなく
雨滴かと見れば犇めくあめんぼう
大淀の水に育ちし青田かな
切株に一息いるる登山道

せいじ
あひる
うつぎ
満天
はく子
あひる
せいじ
凌霄花特等席は二階窓
青葉影白狐を彫りし神の石
訪問の介護士にまず麦茶かな
道の駅曲がり胡瓜を大盛に
はく子
はく子

一〇二三年六月二九日
一閃の雷火に現れし木偶の角
独り寝に夜干の梅の匂ひけり
一〇二三年六月二八日

素秀
素秀
ムベ
ムベ
ムベ
ムベ

耳澄まし泉の奏づ樂聞かむ
あぢさゐの地に伏すもあり雨激し
一〇二三年六月二七日

泣き相撲行司手に持つ般若面
泉殿木漏れ日湛へ水鏡
女人涼し帯に挟める乗車券
猫の手も借りたしと思ふ梅仕事
梅雨晴間散歩がてらに小買物
一〇二三年六月二四日

なつき
なつき
うつぎ
うつぎ
千鶴
千鶴
はく子
はく子
はく子
はく子
はく子
はく子

黒日傘傾むけ涙隠しけり
沢からのよき風通ふ夏木立
潔く庭の紫陽花剪定す

素秀
素秀
明日香
明日香

岨道の左右に広ごる歯朶若葉
少年が行司務める泣き相撲
山頂の風に憩へば汗引きぬ
湯ほてりをさます散歩や夏柳

一〇二三年六月二六日